

つどい

642号  
2025/4/20

〒204-0022  
清瀬市松山一-二-一-二  
カトリック清瀬教会  
TEL:042-491-0104

# ご復活おめでとう ございます



2024年度のみとい  
う短期間でしたが、三教会  
の主任司祭を務め、色々と  
見えてきたものがあります

倒れて、急遽二つの教会を  
受け持つことになりました。  
そして、今回のような三教  
会の主任兼務という、激動  
の一年間を乗り越えるこ

## 新しい一步

主任司祭 パウロ 野口邦大

した。2017年に司祭叙  
階の恵みを受けてから、2  
019年に秋津教会の主  
任として着任し、コロナと  
いう大きな出来事を乗り  
越えようとしていた矢先、  
2022年に清瀬教会の  
主任だった西川神父様が

とができたのも、皆さまの  
支えがあったからです。本  
当に感謝しております。

これまでの小教区は、一  
人の主任司祭が一つの教  
会を司牧するという東京  
教区では、基本的な司牧ス

タイルでした。しかし「収  
穫は多いが働き手が少な  
い（マタイ9:37）」という  
み言葉を如実に表してい  
るよう、「兼任」という形  
での司牧スタイルが徐々  
に浸透し始め、前に向かい  
進んでいこうとした結果、  
新しい一步を踏み出しま  
した。

私たちは日々、歩み続け  
ています。一日として同じ  
日はありません。たとえ同  
じ日の繰り返しだと思つ  
たとしても、時間は留ま  
ることがないため、新しい形  
へと変化しているのです。  
日々「進化」し続けている

のです。

ところで、進化の反対とは何でしょうか。退化でしょうか。いいえ、進化の反対とは、「前に進まないこと」「動かないこと」です。

これまでの経験を踏まえて、新しい一步を踏み出さないところ「怠り」であり、動き出すためには挑戦という勇気が必要なのであります。

教皇フランシスコはコロナ前から、小さな自分という世界にとどまるのではなく、外に向かって「飛び出していく」ように声をかけています。テレビとい

う枠の中で、世の中を見る人になるのではなく、またソファーにくつろぎ、スマートフォンをいじるだけの小さな人になるなど警

告していました。むしろ「マリアは出かけて、急いで山里に向かった（ルカ1:39）」とあるように、目覚めることと、起き上がるこの大切さを強く主張しています。

に固執しすぎて本当に大切なものを見失つてしまふのであれば、それこそ伝統を守る意味があります。

アブラハムの信仰に学ぶ幸い

秋津・清瀬・小平教会  
助任司祭  
フランシスコ・アシジ  
畠田 聰

信仰の共同体である教会が、豊かなものとなりますように、共に祈り合いましょう。

叙階してからようやく二年が経ちましたが、予期せぬ異動は実に神様の計らいです！私の心は、皆さんとの別れを惜しむ



というよりかは、これらも互いに信仰の歩みを続けていった先に、いつの日かの再会（天の国でかもしれません）を楽しみにしています。人生は旅、地上の命は一つの

巡礼でしかないからです。どんな別れも、しばしの別れでしかないといふことを知るなら、いつも希望があります。

行き先も知らずに、神様の約束だけを信じて旅に出たアブラハムのようにならぬまま旅に出るに、私も先のことが全く分からぬまま旅に出るよう、神様はお望みになつたようです。実は、行く国が決まつたのも最近のことと、パリのどこの

大学で、どのくらいの期間勉強すれば帰つて来られるのかも私にはまだ分からぬのですが、私は先のことについて野暮な

ことを聞いたりはしません。先のこととを知つて安心したいという気持ちは、なんとなく神様への信頼のなさのように感じてしまうからですね。「知つてどうする、計画を立ててどうする、今を精いっぱい生きること以上に良い生き方はないだらう」。そんなことを自分に言い聞かせながら、アブラハムの信仰に学ばせてもらっています。

捧げるよう神様に求められました。神様のなさることは本当に不可解で、私たちには躊躇になつてしまつこともあります。

もつとあつたらいい、ま  
ずは自分がそうなりた  
い、そう強く思い始めた  
短くも濃い三教会での  
日々でした。

て、信仰を奮い立たせて、神様に従おうとしたアブラハム。自分の理屈を二切差し置いて、神様に全てを賭けたアブラハム。十字架に向かうイエス様もそうでしたね。信仰は、このように命がけの

もそうでしたね。信仰は、このように命がけのものになつていく時、多くの人に対して証しにたるのでしよう。この本物感がひしひしと伝わるような信仰が、今の教会に



皆様には本当にお世話を  
になりました。色々とご  
迷惑もおかけいたしまし  
たが、皆様の本物を求める  
る信仰が私を育ててくれ  
ました。皆様がイエスを  
求めるので、私もイエス

と親しくなるよう激励されました。これからも、ふと私のことを思い出し、た時にはアヴェ・マリアを祈つていただけるとあります。日本語を忘れず、ワインに溺れませんように。主のご復活、おめでとうござります。

この度、フランス パリに留学されることになった富田神父様、“数か月の準備”の後に渡航されます。神父様の上に神様の大きなお恵みがありますように。是非、また清瀬教会に戻ってきてください。

協力司祭となりました  
よろしくお願ひします  
司祭

ステファノ・ボナベントウラ  
加藤 英雄

皆さん、こんにちは。

春風が気持ちよく、体にささやきかける日々になりました。春が来了。嬉しい出発の時です。

もう一年になるでしようか。小生、千葉県木更津教会の仕事を終え、秋津教会、清瀬教会の協力司祭に任命されました。早速、段ボールをトラックに積んで引つ越してきました。秋津教会に来たのも春でした。

いや、夏の初めかな。2024年5月1日に清瀬市に住民登録し転入しました。小生、今年で八十歳になろうとしている老体です。秋津教会、清瀬教会にお世話になります。よろしくお願いいたします。実は、今から30年ほど前、秋津教会に派遣されたことがあつたのです。叙階後、初めて主任司祭として派遣されました。初々しい青年神父でしたーと思います。そのころ、散歩気分で、秋津駅から教会まで歩きます。20分ほど歩きます。周りには、住宅は殆どなく、畠が広がっていたと思います。

ます。夜、駅から教会まで、夜空を見ながら歩いたことを思い出します。今、小生は協力司祭として、ミサの手伝いをしています。協力司祭はお手伝いです。協力司祭をすると聞いたとき、初めに帰りました。大きな、出発が与えられた秋津教会に派遣されたことを思つたのです。自分にとって、信仰とは何か。祈りとは何か。聖書を読む、聖書の何を読んでいたのか。信仰を歩いているか。賛美歌を歌う。ミサを行う。それらを初めから心に留め、心から行うのだと思ったのです。

清瀬教会のミサも手伝つています。その昔、秋津教会にいたとき、清瀬教会の事はまったく気にしていませんでした。自分の仕事だけしか考えていなかつたのでした。そんな夢中は駄目ですね。夢中はすばらしい、しかし、そこには自分しかいない。今、清瀬教会のミサを司式します。信徒のみんなは神様との出会いを求めて、神様に心を向けています。落ち着いた重さの目が神様を見つめている。神様のみことばがみんなの心に入つて行く。ミサのうちの一一致を感じるのです。また、新しい神

父のミサにあづかることがあります。たちは却つて幸いだよ。いろいろな神父のミサにあずかれる。それなりの説教が聞ける。それなりの神父でありますように。説教をプリントしています。大事なことを言い忘れていました。皆さん、ご存じだと思いますが、小生は言語障害があります。「お前の説教、何が何だか分からないよ。もつと分かりやすく、ゆっくり話してくれ。」話しがうまくゆかない。せめで、説教を読んでほしい。何とか聞き取つてほしい

秋津教会と清瀬教会は近い。場所が近い。兄弟の会だと思います。同じ神父の話を聞く。性格が少し違う兄弟の教会が、同じ司祭に導かれ、み言葉のうちにどんな違いが生まれ、育つてゆくのか楽しみです。

清瀬市は都会ではないと思います。朝方、空気が澄んでいます。爽やかな、日の出前の静けさが体に沁みます。自然が感じられる、生きる、自然の中に生きる。朝方、梅の木が咲いていた。梅の木が喜んで咲いています。切ない小生のお願いです。

木が満開ですよ。鮮やかですね。」「昔は、道路の『とんでん』のあたりまで、梅の木がいっぱいでした。梅が一面に見事に咲いたのを。こここの住所は梅園とあります。こここの住所は梅園と言ふでしょ。」



時々、夕焼けを見ます。お日様が、一日の始まり朝を告げ、一日の終わり夕を告げます。

静かな東京を、ゆっくり味わって歩いて行きたいと思います。この道を教会の皆と一緒に、歩いて行きましたいと思います。協力司祭となりました。よろしくお願ひします。

「神の時を生きる」  
カトリック長崎大司教区  
助祭 トマ 廣田 学

主のご復活おめでとうございます。  
昨年4月から約1年間、宣教司牧実習でお世話になりました、本当にありがとうございました。皆さまと過ごした日々は、私にとってか

けがえのない学びと励ましに満ちた時間でした。

このたび、神の恵みにより長崎大司教区の助祭に叙階され、多くの祈りとお祝いの言葉をいただきましたこと、改めて御礼申します。

今回作成した叙階カードのみことばー「何事にも時があり、天の下の出来事にはすべて定められた時がある」（コヘレトの言葉3・1）ーには、これまで何度も励まされてきました。それもあってか、叙階式中の「諸聖人の連願」では、これまで多くの人を通してイエスに導かれ、歩んできたことが思い出されました。

自然と涙がこぼれました。

幸いです。

振り返ってみると、日々の出来事は何気なく過ぎていくようでいて、一つひとつが神からの大切な恵みだったことに気づかされます。出会いや経験のすべてが尊く、今この瞬間こそが、神が与えてくださった「恵みの時」であり、分かち合うために託された贈り物なのだと感じています。

なお、5月からはカトリック浦上教会付助祭として奉仕させていただいております。お近くにお越しの際は、どうぞお立ち寄りください。

皆さまの上に、神さまの豊かな祝福がありますよう、心よりお祈り申し上げます。

とはいえたキリストの奉仕者としての歩みはまだ始まつたばかりです。これからも司祭職を目指して、主に信頼しながら歩み続けてまいりますので、引き続きお祈りいただければ幸いです。



# 信徒動向

2024年1月

～2025年3月

【転出】

デニス・コ 生田 誠さん

（長崎教区大曾教会へ）  
洗者ヨハネ 岩下 啓史さん

（仙台教区元寺小路教会へ）  
ローラ・横田 佳代子さん

（仙台教区元寺小路教会へ）  
テレジア 松木 このみさん

（さいたま教区所沢教会へ）  
クララ 安藤 和美さん

（2地区）  
マキシミリアーナ・  
マリア・コルベ

（2024年1月）  
セシリア 黒丸 佳保子さん

（2024年2月）  
ジタ 片平 節子さん

（2024年3月）  
マリア・ヴェロニカ

（2024年4月）  
ペトロ 平野 忍さん

マリア ヴィアトリーチェ

岩下 近子さん

マリア 福持 みむねさん

（10.地区）

ヨハネ 仙石 和行さん

（2地区）

マリア クララ  
（2地区）

ジヤンヌ ダーク

野仲 佐芳子さん

（8地区）  
マリア・マグダレナ

（9地区）  
西村 静子さん

（2地区）  
マリア・マグダレナ

（2地区）  
西村 静子さん

（2地区）  
マリア・マグダレナ

パウロ 杉浦 真一さん

（麹町教会へ）  
【転入】

（麹町教会へ）  
（徳田教会へ）

アグネス 鎌田 ハツエさん

（6地区）  
榎本 希世子さん

（6地区）  
マリア・コルベ

（2024年1月）  
マリア・コルベ

（2024年2月）  
マリア・コルベ

（2024年3月）  
マリア・コルベ

（2024年4月）  
マリア・コルベ

（2024年5月）  
マリア・コルベ

（2024年6月）  
マリア・コルベ

（2024年7月）  
マリア・コルベ

（2024年8月）  
マリア・コルベ

マリア ローラ半田 和子さん

（大阪高松教区桜町教会へ）

（6地区）  
クリスティーナ・パウラ

（6地区）  
マリア・クララ

（6地区）  
朝見 鈴子さん（2地区）

（3地区）  
マリア・クララ

（3地区）  
トマス 塚田 晋也さん

（3地区）  
橋本 周子さん

（3地区）  
トマス 塚田 晋也さん

（3地区）  
トマス 塚田 晋也さん

半田 ひかりさん  
（大阪高松教区桜町教会へ）

（10.地区）  
（10.地区）

（2024年4月）  
（2024年4月）

（2024年5月）  
（2024年5月）

（2024年6月）  
（2024年6月）

（2024年7月）  
（2024年7月）

（2024年8月）  
（2024年8月）

（2024年9月）  
（2024年9月）

（2024年10月）  
（2024年10月）

（2024年11月）  
（2024年11月）

（2024年12月）  
（2024年12月）

（2024年1月）  
（2024年1月）

（2024年2月）  
（2024年2月）

（2024年3月）  
（2024年3月）

（2024年4月）  
（2024年4月）

（2024年5月）  
（2024年5月）

（2024年6月）  
（2024年6月）

テレジア 寺田 須美子さん

(2024年7月)

ヨゼフ 和栗 哲雄さん

(2024年7月)

ヨハネ・マリア・ヴィアンネ

高橋 次郎さん

(2024年9月)

マリア 山口 房子さん

(2024年10月)

カルロ 河内山 典隆さん

(2024年12月)

シンクレア 平野 キヨさん

(2025年1月)

マリア・ヨアキム・アンナ

大久保 京子さん

(2025年3月)



2024年敬老会



2024年初聖体



2024年七五三



2025年成人式

### 編集後記

この「つどい」の編集に関わったのは、確か2014年4月に発行した第602号からだと記憶しています。途中、Y氏、Mさん、Sさん等と協力しながら、今日まで何とか続けてきました。原則として隔月の発行としていましたが、新型コロナ感染症による2020年3月15日からの公開ミサ中止により、半年に1回、1年に1回の発行となり、今回、およそ一年半ぶりの発行となりました。過去にはS・Tさんが一人で長期間編集されたり、いまは他教会に転籍されたSさんご夫婦が編集されたりしていました。自宅にあるバックナンバーを開いてみましたが、同じ号数のものが何回かありました。今後の編集に期待したいと思います。宮田雅文

これから「つどい」を担当します。皆さまのご協力よろしくお願ひいたします。丸山純一